

平成27年度 ニセコ町学校評価委員会報告書

学校等名 : 北海道ニセコ高等学校

項目	No.	共通重点目標	共通の評価の観点	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
							評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
分ける授業 楽しい学校・ 幼児センター	1	「分かる授業」を目指した授業改善の推進（幼児センター：「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成）	①授業改善のための校内研修の充実 ②効果的な指導方法や指導形態の工夫 ③教育課程改善に向けての取組 ④児童生徒アンケートの結果	・年2回の公開授業に併せて、教職員の互見授業を実施した。 ・授業改善に向けた観点別評価のあり方についての校内研修を実施し、指導法について意見交換した。 ・学校視察を実施し、わかりやすい授業の指導方法について教員研修を行った。 ・すべての授業において授業評価を実施し、教職員で結果を共有した。	B	・公開授業の保護者の参加が少ないことから、実施時期や方法を改善する必要がある。 ・計画的継続的に、学校視察を行い、優れた授業技術を習得する機会をつくる。 ・校外の研修後の報告会を実施し、学校全体で共有できる体制づくりを行う。 ・「何を教えるか」ではなく、「どのような能力を身につけさせるか」を考えて教育活動に取り組む。	B	・社会で生きていくための最低限の基礎学力を身につけさせるために、自ら学ぶ力を引き出す授業を心がけることが大切だと思う。 ・授業の学習内容がわかるだけではなく、積極的に人前で発表する力を養うことも今後はさらに重要になってくと思う。
	2	特別支援教育の充実	①配慮を要する幼児、児童生徒に対する支援のための研修の充実 ②個別的教育支援、指導計画の作成・実施 ③特別支援学級への校内支援体制の充実 ④特別支援教育への保護者理解	・スクールカウンセラーによる校内研修会を実施し、生徒個々の対応の仕方について共通理解を図った。 ・月ごとに、生徒情報を共有する会議を行い、教員間の連携強化に努めた。 ・担任を通じて保護者生徒の学校生活の状況を伝え家庭と連携した指導を行った。	B	・特別支援に関する研修会へ積極的に参加し、生徒の支援に関するスキルアップを図る必要がある。 ・スクールカウンセラーによる各教室での観察を継続実施し、生徒個々の指導について助言をもらう。 ・今後も、支援を必要とする生徒が増えてくることが予想されることから、外部講師を招聘した校内研修会を検討する。	B	・生徒も多様化していると聞いている。そのため、生徒一人ひとりに向けた指導を行うため、スクールカウンセラーの活用や外部機関との連携をして学習や生活をサポートして欲しい。
	3	読書活動の推進	①朝読書（一斉読書）の取組状況 ②図書館利用、読書活動の状況 ③「あそぶっく」との連携	・朝学習を実施していることから、朝読書は実施していない。 ・図書室の利用は限られた生徒のみで、読書の定着至っていない。 ・「あそぶっく」と連携した「立ち寄り図書館」や学校祭での本販売等を3回実施し利用者も増加した。	B	・図書だよりを定期的に発行し読書への意欲喚起につなげていきたい。 ・授業での調べ学習等積極的な図書室の活用と図書委員会の啓発活動で効果的な図書館利用を進めたい。 ・「あそぶっく」と連携をさらに継続していきたい。	B	・読書をすることで「読み解く力」が身につけさせることができる。 ・継続的にあそぶっくと連携し、読書習慣の確立を目指して欲しい。
	4	いじめ・不登校児童生徒への対応と強化	①児童生徒アンケートや職員交流による実態把握と情報共有 ②いじめを生まない児童生徒の交流活動の推進 ③いじめに関する情報の組織的な共有	・いじめの早期発見に向けて、いじめアンケート実施回数を年間4回に増やして実施した。 ・「いじめ防止標語コンクール」の全校生徒での応募や標語の掲示など生徒自身がいじめ防止について取り組んだ。 ・スクールカウンセラーによる面談や教室での生徒観察等を通して状況把握に努めた。	C	・いじめアンケートの年4回実施とともに、クラス担任による個別面談を実施し細かいスパンの中で生徒の実態把握を進める。 ・いじめ防止標語の作成など、生徒が自ら取り組む活動を推進していきたい。 ・スクールカウンセラーや外部講師によるいじめ防止の講演会を実施する。	B	・いじめについては、いじめる側もいじめられる側もいじめについて学校全体で考えさせることが必要である。 ・日常的に生徒と教員の意味疎通を図れば問題が大きくなる前に対応できるのではないかと。
幼児家庭・ センター、 地域の学 校連携・	5	外部人材の積極的活用	地域の方のゲストティーチャーなど、積極的な外部人材の活用	・性や薬物に関する講演をはじめ授業においても、地域の方々（農業関係者・ホテル・商工会関係者・専門学校・大学の出前授業等）や有識者をゲストティーチャーとして積極的に活用できた。	A	・今後もさらに継続した活用を進めていくと共に地域の外国人をゲストとした授業も検討していきたい。	A	・地元にいる多くの人材を活用し、外部講師を積極的に活用できると良い。 ・ニセコ高校は、積極的に外部講師を活用した取組を行っていると思う。これまでどおり継続実施して欲しい。
学校・ 幼児セ ンター	8	服務管理の徹底	①教職員の服務規律の遵守 ②コンプライアンスに関する研修の実施	・交通ルールの遵守や服務規律の厳正な保持について、朝の打ち合わせや職員会議などで継続的に服務規律の厳正保持について啓発した。 ・通知やリーフレットを活用した校内研修を随時実施した。	B	・特に交通事故・違反、個人情報の管理、体罰防止金銭の取扱いについては、全体の啓発と共に、個別面談でも啓発していく。 ・コンプライアンスについて研修を定期的に行っていく。 ・若年層の面談を実施していく。	B	・交通事故・違反等がなかったことは日頃の指導と先生方の心がけの現れである。今後も継続して欲しい。 ・継続した研修や呼びかけを行い、服務規律の保持に取り組んで欲しい。